

令和四年十月二十九日 代神誕生記念祭

神 示

使者供丸齋——神の命を受け 教会の基を築かれたお方

その功績をたたえて 今日 代神 今は神・「供丸齋命」

信者は 代神の御名唱えて 心救われる真実に 気付くべし

本来 人の心は 「心の道」に受け継がれ 変えられぬもの

性格 気質・体質として その心に表れる

人間が 「心」悩み 苦しみ 「人生」に迷うのも

実体に表れる質にある

なれど 士・供丸齋の「救世の歩み」を知り

その「心」を学ぶことで 人間は質を高められる

目指すべき「人生の手本」を得ることで

人間は 目標を持ち 努力ができる

信者は 「教え」に悟りを深め

人生の手本を身近に感じることで

ますます正しい祈願ができる

——「希望の光」を自ら歩み 「真実の光」を手にするために

今日の神示教会が存在する——

神が使者供丸齋に求めた環境を 信者は手にし 身を置いている

後は 信者一人一人が

「教え」を学び 「真理」に悟りを深め

自ら「希望の光」を通す人生を歩む

この決意が 「神の心」に重なるのである